

マタイの福音書 第5章 9節

「平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。」

他国による支配のなかで、人々は不自由な生活を余儀なくされていました。国土を牛耳られ、自らのアイデンティティを阻害され、それでも生きなければならぬ不条理な状況が日常化していました。思いを自由に口にすることが出来ない監視社会が常態化します。息が詰まるような日々が続きます。

なかには支配者への反感から行動する者たちもいたでしょう。敵対行動をとるグループも生まれたでしょう。自分たちは行動出来ないが、陰ながら見守り、支援する者も当然いたでしょう。支配者の統制力や行動規制が厳しくなるほど、反体制側の反発がより激しくなり、争いが頻発したでしょう。支配者側、それに反発し闘う集団。双方に死者や負傷者が出たでしょう。争いが起こす悲惨な状況が国土に広がったでしょう。

その時代、都から離れた小高い山での言葉があった。その御声を聞く群衆は、都を捨て逃れた者たちと言ってよいでしょう。支配者に縛られた生活から逃れたい者たちでしょう。彼らのなかには、戦った者も居たかもしれません。しかし、山に来るしかありませんでした。そこで聞くのが、「平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。」

2022年12月26日